◎最優秀に3人◎

横中弁論大会開く

柄沢さん(3年)志田君(2年)本間さん(1年)

一月二十二日、横越中学校体育館において生徒会主催の弁論大会が開催されました。

この弁論大会は、毎年実施されているもので、冬休みの宿題として全校生徒が千五百字程度の自由課題で提出された作品の中から、クラスで選ばれた九名がこの弁論大会で、いつおとずれるのかわからないのです。

交通事故や、だれかに殺された人も、すごくかわいそうだが、でもそのやった人に、いかりをぶっつける事ができますが。そういう人以外でアッというまに命がなくなる事があるその周囲の人たちは、

「志田先輩、家の人から連絡があって早く帰ってこいって、言ってたよ!」部活の時そう一年生から聞かされて、また何かあったのかな、でもたいしたことないだろうと、思いながら家に帰りました。

家に帰ってもだれもいなく外に出てみると、おじさんと近所のおばさんが、しゃべっていて僕の顔をみるなり、「栄作君が急性心不全で死んだてんがなー」と言いました。

栄作君とは僕のいとこです彼は、学校へ行く途中歩いていて、倒れてそのまま亡くなったのです。大学三年志し半ばでした。

この知らせをきいて、始めは信じられなかったけれども姉が来て、おじさんと同じ事を僕に言ったのです。その時僕は、目の前がまっくらになり、今どうして良いのか自分でもわからなくなってしまいました。

みんなからみれば「いとこのことでそこまでと」考える人もいるでしょう。でもこの人は僕にとってかけがえのない人だったのです。やさしかったし、幼い頃から良く遊んでくれました。良く泊りました。休みになるとかならず遊びに行きました。

その時も良くしてくれました僕は兄貴のように思っていました。

これくらいの事では、僕と栄作君の親密な関係はわからないでしょうが、とても僕が尊敬していた兄貴のようないとこが死んでしまったのです。

そのほか、雪山に登山に行って、そのまま、ゆき倒れになって死んでいったり、交通事故で車にはねられて死んだり、おぼれて死んだりして、まだ死にたくもないのに、命がなくなる事があるんです。

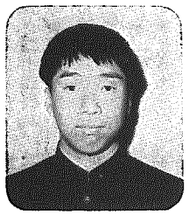
あまりにもあっけない死は全校生徒の前で発表したものです。そしてこの中から、各学年の最優秀一人計三人が、生徒代表十名と、先生方の審査員によって選ばれました。

審査は、論題と内容があっているか、弁論者の見方、感じ方がはっきり表されているか聞きやすく納得させられるような発表であるかなど、総合得点五〇点満点で審査されたものです。最優秀に選ばれた三人のうち、柄沢成美さんの「差別」は、二月六日の有線放送で紹介しました。

本紙では志田英男君の「命を大切に」を紹介し、次号では本間由美子さんの「部活について」を紹介します。

命を大切に!

2年1組 志田英男



いったいだれにいかりをぶっつければよいのでしょうかだれをうらめばよいのでしょうか

こういうふうに死んだり殺されたりした人の肉親や周囲の人の気持には、はかりしれないほどの、つらさ、せつない気持は味わってみた人以外は、わからないでしょう。こをそつ業してこれから、なにかの道へ進もうとして志し半ばで亡くなった人の事を、考えて下さい。僕のいとこにくらべたら、自殺する人は、自分勝手で、わがままです。

自分が命を、おとした時に悲しみ、苦しむ人がたくさんいるのです。

自から命を、おとした人はよいかもしれませんが、あなたの肉親や周囲の人たちの事を考えてみたことがあるんでしょうか。

その人たちはあなたより苦しい、死ぬくらいのつらい気持を味わっているのです。

つらい事、かなしい事があっても、がんばって、それをのりこえ、自ら命をおとそうなんて考えないで下さい。命は一つしかないのです。死んでから「あっ、しまった」なんて事は、もうできないのです

親からもらった命、なにかをみいだす命、すばらしいではありませんか。その命をなくしては、いけないのです。そして人の命もうばっては、いけないのです。

だからもっと命について考え、そして大切にしてゆかなければなりません。

核心話

有線放送は、協会(主体・役場・農協)として発足し放送開始から二ヵ月を経過。漸く軌道に乗ってきた感がいたします。

今後は、ページング(地区放送)、緊急放送テレホンサービス等も始動することになり、いよいよ有線の特徴が発揮されることになります。

この有線放送は、情報化時代における地域社会に、新しい境地を拓くものとして、内外から期待と注目を寄せられています。

行政にとって広報活動はいかに重要で必要なものであるかは、今更申し上げるまでもありませんが、世はまさに情報化時代といわれ新聞類、ラジオ、テレビ、雑誌等々、情報は洪水のごとくはんらんしています。情報禍時代とでもいいたくなるほどです。

物は何でも豊富で、消費すればよい時代から〝省エネ時代〟をむかえた今日、情報の質について見直してみることが、必要になってきたようです。「どこからかやってきて、どこなく通過してゆく」のでなく、私たちの生活文化に深くかわるもの、したがってこれからは、量ではなく質の問題としてとらえることではないでしょうか。

最返、情報の公開ということがいわれています。これは、官庁等がもっている情報を、住民の前に提供することが望まれているのだと思います。これらは、「住民が切に知ろうとしているものは何か」という事柄でもあり、的確な資料集収と、これを分析してわかりやすく知らせることだと思います。

したがって、有線放送をつかさどる協会は、かかる認識に立って課せられた使命を組織的に、計画的にとり組むことが当然要請され又、放送の内容については「総べてのものが満足する」というわけにいかないにしても、対象となるものには「内容のあるもの」としなければならないと思います。

一方、有線放送の趣旨から放送は、協会だけのものでなく、加入者みんなのものとして、村内のあらゆる機関、団体等から積極的に放送の利用をしていただき親しんでもらうことが、何よりも大切なことだと思います。

(佐藤)

ゲレンデで 餅つき大会

第7回村民スキー教室

この餅おいしいね!

恒例の村民スキー教室が去る一月二十五日上越線五日町スキー場で開催されました。当日は幼児から一般を含め五十名が参加。午前中は、初心者を対象にスキー技術講習会が行なわれました。午後からは、餅つき大会が行なわれ、重い杵を持ち上げるのがやっとという子供たちの姿を見て囲りからは笑声や「ヨイショヨイショ」の声援がとんでいました。

つき上がった餅は、さっそくきなこ餅にして参加者全員に配られました。中には三つも四つも食べた人もありたいへんな好評でした。

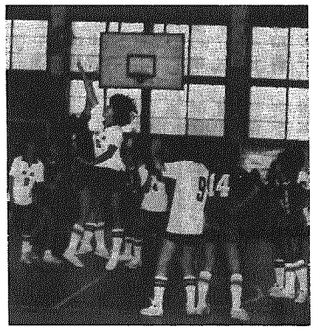
今回初めて企画したこの餅つき大会。空き腹でほゝばる味は又格別と参加者から大変喜ばれ、来年もぜひとの声が多くありました。

中学女子が優勝

新津近郷篭球大会

さる一月十一日、新津市民会館を主会場に、第二十一回新津近郷中学校バスケットボール大会が開かれ横越中学校女子チームが見事優勝しました。

優勝した横中女子は、一、二回戦は楽勝しましたが決勝では、白根一中と戦い、39対30で敗り辛勝しました。



一方、男子チームは、善戦空しく一回戦で新津五中と対戦、33対39で敗れました。

猪苗代で 美浦一横越 青年スキー交流会

二月には姉妹村の調印

村連合青年団では、去る一月十一、十二の二日間、福島県猪苗代スキー場で、茨城県美浦村青年十五名と、横越村青年二十五名が参加し、スキー交流会を開催しました。

両村の定期的な交換研修だけでは何か欠けるとして、今回のスキー交流会は昨年から始めて二回目となりました。十一月の交換会で顔なじみも多く、話しもはずみ、両村が姉妹村として契りを結ぶ調印が近い、等々の話題で場所や雰囲気も変って、楽しく有意義に過しました。

二月には、美浦村を訪問する定期交換会が予定されており、本村からは村長、議会議長、教育委員長等のほか青年団が出席する予定です。

※※※※※ 新春俳句大会 ※※※※※

兼題一位 坪谷十九一氏
席題一位 今井 夫子氏

今年も第八回の新春俳句大会が、一月二十五日公民館において二十五名の参加をえて開催されました。この成績をご紹介します。

○兼題 「初明り」「初鶏」「初髪」(年の髪、結ひ初め、梳き初め)

一位 坪谷十九一 木 津
二位 小林 竹生 二本木
三位 増渕 一路 横 越

○兼題の高点句

一位 小林 竹生
くるくると水車がこぼす初明り

二位 増渕 一路
牛の護符戸口に張られ初明り

三位 今井 天花
初明り雪より白ろき牛乳搾る

○席題 節分、冬木立(寒林枯木立)冴ゆ(冴ゆる夜、月冴ゆる)

一位 今井 夫子 木 津
二位 坪谷十九一 木 津
三位 佐藤 志残 木 津

○高点句

一位 田村きよし 横越
節分や施設の保母は鬼の役

○一句兼吟 題は「白鳥」

一位 神田 斗子 横 越
白鳥の一群虹の圏に入る